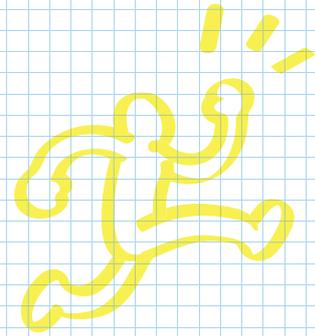




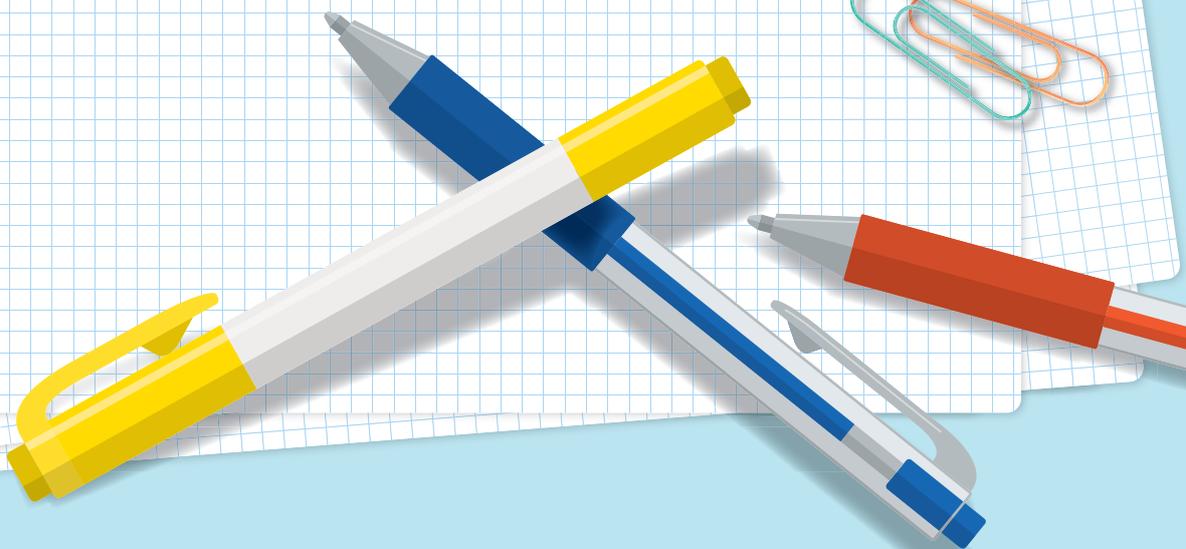
学生に聞く



# 成長に寄与した 授業紹介

調査コラム plus

vol.2





# 企業調査・卒業生調査 にみる社会で求められる能力とは？



## 企業・団体が求める力は 「親和力」「協働力」

本学実施の2024年度企業調査(図1)によれば、企業・団体の採用担当者は、新卒採用者に「親和力」や「協働力」を求めています。本調査では、アセスメント・テストに紐づく各能力について、企業・団体の採用担当者がどの程度新卒者に期待しているかを調査しています。Vol.1では「親和力」を取り上げましたが、今回は「協働力」に焦点を当てます。「協働力」とは、「目標に向けて協力的に仕事を進める能力」です。採用のプロセスにおいて、企業・団体の採用担当者は、学生が周囲と情報を共有し、周囲の意欲を引き出しながら課題に協力して取り組む力、さらにはリーダー的立場からメンバーを導き、チームや後輩の意欲を高めていく力に注目しているのかもしれませんが。

### 企業・団体が求める力

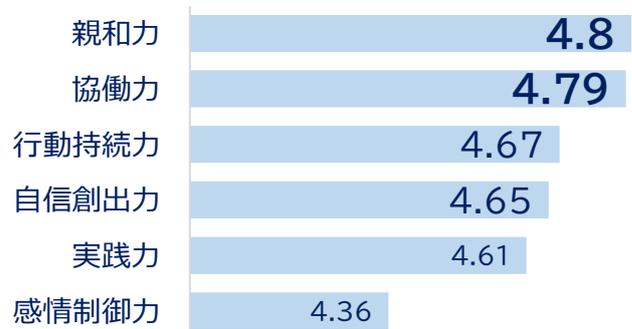


図1.2024年度企業調査

※企業採用担当者に対し、新卒採用者に求める力を5件法（求めない～求める）で調査。アセスメント・テストに紐づく各能力を回答値に応じて加重平均を算出。（N=284）

### 卒業生が感じる社会で 必要な力

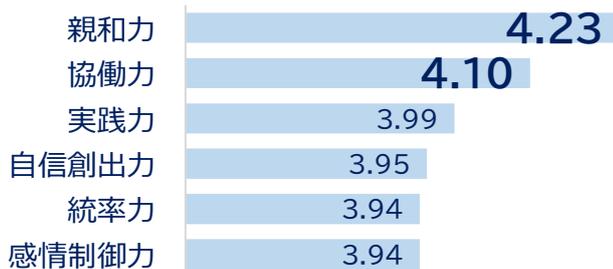


図2.2025年度卒業生調査

※本学卒業後3年・7年の卒業生に対し、社会で必要と感じる力を5件法（あまり必要ではない～絶対に必要）で調査。（N=495）

### 卒業生が感じる社会で必要な力も 「親和力」「協働力」

一方で、2024年度卒業生調査(図2)をみると、卒業生が社会で必要だと感じている能力も、企業調査と同様に「親和力」や「協働力」が上位に挙がっています。この2つの調査結果を比較すると、いずれもトップ2が「親和力」「協働力」の順で一致しており、企業側と学生側の認識が重なっていることが分かります。こうした結果から、これらの能力(コンピテンシー)を強化することが、今後の就職活動においても、さらにその先のキャリア形成においても、重要なポイントになると考えられます。

## どのようにコンピテンシーを強化 するのか？

では、これらの能力をどのように強化すればよいのでしょうか。本学では学生への解説会はもちろんのこと、内部質保証活動を通して、アセスメント・テスト結果のレビューを行い、学生のジェネリックスキルの状況を踏まえながら、授業へのフィードバックを図っています。次頁以降では、特にコンピテンシーの成長が著しかった学生・能力が高かった学生の声を踏まえて、自身の成長に寄与したと感じた授業を抽出し、教員の思う授業ポイントと学生の思う推薦ポイントについて双方の視点から、各学部の特徴的な授業を紹介していきます。

# 基礎ゼミナール

政経学部 経済学科 教授 関口 博久 先生

## 授業内容

政経学部の基礎ゼミナールは2年次に配当される科目で、1年次の初年次ゼミナールと3・4年次の専門ゼミナールをつなぐ架け橋となる授業です。演習という授業形態を踏まえた上で、卒業後に社会でも役立つ基本的かつ普遍的な知識・方法をグループディスカッション等を通して段階的かつ体系的に学びます。

## 先生に聞く授業ポイント

### 発言と傾聴の演習で段階的に説得力を習得する！

この授業は、講義科目でなく演習科目であることから、レポート課題の発表等、毎回の授業で何らかの形で参加者全員に必ず発言をしてもらうと共に、意識して相手の話を聞くことを学びます。その際の相手への説得力を身に着けるためにも、知識・方法を段階的・体系的に習得してもらいます。



### Point 1

#### 視点を広げ説得力を養う！

社会科学の基礎となる**言葉の定義、分類のための基準、物事の見方**といった点について、レポート課題を通して学びます。レポートについては、**ゼミ生全員に提出をしてもらうと共に全員に発表**をしてもらいます。教員のフィードバックと共に、自分の考えた内容と他のゼミ生の考えた内容を比較することによって、**多様な考え方を学ぶ機会や説得力の習得**に繋がります。

### Point 2

#### 改善へ導くPDCA思考！

前提として、問題を「**現状とあるべき姿のギャップ**」としてとらえた上で、何事についても**PDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善))**を意識することを学びます。具体的には、本科目が通年科目であることから、秋期の始まりにはPDCAサイクルを踏まえた春期の振り返りを行ってもらい、秋期以降に活かしてもらっています。**このPDCAサイクルはさまざまな場面で活用**できるかと考えます。

### Point 3

#### 議論力を高める実践演習！

議論の基本的な進め方として、**共有(議題についての共通認識の形成)→発散(意見の交換とアイデアの収集)→収束(意見の集約と解決策の形成)→決定(合意形成)**という流れを学んだ上で、テーマに沿って**グループディスカッションと発表**をしてもらいます。具体的には、「**国士館大学とはどんな大学**」「**学生と社会人の違い**」「**少子化対策**」「**日本の景気**」「**松陰神社駅前にあるカフェの売上を2倍にするには**」「**就職活動**」等さまざまなテーマで進めます。

## 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 政経学部 Nさん)

### 「現状」と「あるべき姿」のギャップを埋める考え方が身につく！

関口ゼミでは、「現状」と「あるべき姿」のギャップを理解し、どのようにして「**あるべき姿**」に近づけるのかを考える力を養うことができます。この考え方は、学業だけでなく就職活動や**社会でも役立つ貴重なスキル**です。ゼミを通じて自分自身を成長させる実感が得られるのはもちろん、**長期的な視野の広がり**も感じられます。



Solution

### PDCAサイクルで進化し続ける自分を実感！

課題の発表や先生からのフィードバックを通じて、**現状の課題をしっかりと把握し、改善点を見つける機会**があります。PDCAサイクルを実践することで、**目標に向かって計画的かつ着実に前進**できるのが魅力的です。このプロセスにより、論理的な思考力と問題解決力が磨かれ、**幅広い場面で活用できる力**が身につきました。



Stimulation

### ゼミ仲間とともに切磋琢磨できる充実した雰囲気！

ゼミ生同士の仲が良く、**情報を共有しながら支え合う温かな環境**があります。普段は和やかでも、課題や発表時には全員が真剣に取り組んでいるため、**メリハリを持ちながら集中して学べました**。主体的で質の高い学びを通じて、仲間とともに目標へ向けて努力し、**達成感や充実感を味わえる貴重な授業**です。



Growth

### 担当教員からのコメント

30回に渡る本演習を通しての基本的かつ普遍的な知識・方法の習得、それを踏まえたグループディスカッションの経験は、大学生活の集大成の一つである卒業論文の完成を目標とする3・4年次の専門ゼミナールのみならず、インターンシップを始めとした就職活動、さ

らに卒業後の社会でのさまざまな場面でも必ず役立つものと考えます。受講生が段階的に学ぶことにより、知識・方法等を無理なく身に付けてもらえれば幸いです。

## 教科教育法(体育)

体育学部 こどもスポーツ教育学科 准教授 陳 洋明 先生



### 授業内容

小学校教員として、学校現場で質の高い体育授業を実践できるようにするために、体育科の教科目標、指導内容等および各運動領域の特性や授業づくりの仕方について、講義を通して理論的に学ぶとともに、学習指導案作成や模擬授業を通して実践的に学ぶ授業です。

### 先生に聞く授業ポイント

#### 体育・スポーツの得意な小学校教員を目指して！

小学校体育科の授業づくりのポイントについて、学習指導要領に基づきながらクイズ形式で学び、学校現場での体育指導の映像資料を視聴しながら授業の進め方のイメージをもちます。また、体育科の教材づくりや指導案作成、模擬授業の実践を通して、学校現場で体育指導をしっかりと行える力を養います。

#### Point 1

習得した知識を実践へ生かす！

小学校を想定した**模擬授業をグループで創り上げ、実践**することが最終目標となるので、まず体育科の指導内容や授業づくりの仕方について、理論的に学びます。小学校では、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ボール運動、表現運動などの領域を指導することになることから、それらを通して児童が「何を学ぶのか」、児童へ「どのように指導していくのか」について「**学習指導要領クイズ**」や「**教材づくりコンテスト**」を通じて身に付けていきます。

#### Point 2

「45分」の模擬授業を体験！

本授業では、担当となった運動領域の学習指導案を分担しながら作成し、その指導案に基づき「**45分**」の**模擬授業を実施**しています。指導案を作成する際は、文部科学省やスポーツ庁が発行している教師用指導資料集などを参考にしながら、**グループで話し合いを重ねて、協働的に作成**していきます。模擬授業では、学生同士で教師役、授業分析役、児童役などの役割を決めて、それぞれローテーションしながら、**学生主体で模擬授業を展開**していきます。

#### Point 3

SA（先輩）からも学ぶ！

模擬授業を行う前には、本授業のSAである、**こどもスポーツ教育学科の4年生からの模擬授業の示範やアドバイスも**受けた上で、実践に臨みます。また、模擬授業後の協議会では、**SAからフィードバックを得る時間を**設け、実施された模擬授業の**良かった点や改善点についての助言**を得ます。実際に教育実習を経験したり、多くのボランティア活動やスポーツ指導を経験したりしている**先輩からの話は、受講生にとって、よりリアルな助言**となっているようです。

### 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 体育学部 Kさん)

丁寧な指導と模擬授業で、目指すべき教師像を確立できる！

小学生への体育指導を行う上で、教師が直面しがちな課題や留意点について、事例を交えながら、**細部にわたる丁寧な解説をしてくれたので、多くの学びが得られました**。また、**先輩方の模擬授業を見学**したことも、とても印象に残っており、私自身の目指すべき教師像を明確にする上で、**かけがえのない経験**となりました。



Solution

模擬授業の改善点を話し合い理想の授業を仲間と追求できる！

模擬授業を行う際には、教師側、児童生徒側、観察者側に役割分担して、**それぞれの視点から授業の改善点を確認**できる点が良かったです。また改善点を話し合う協議会の場が設けられ、**理想の授業を仲間と追求**することができました。さらに、児童生徒がわくわくするような授業構成を学ぶことができた点も、**刺激的**でした。



Stimulation

授業で培った観察力を活かして安心して楽しく学べる環境を創作！

授業を通じて、**物事を多角的に捉え、その本質を見抜く観察力**を培うことができました。さらに、そこで得た知見を積極的に自身の行動へと反映させ、**試行錯誤を重ねる習慣も養**われました。教師として働く上では、これらの学びを最大限に活かし、**児童生徒が安心して楽しく学べる環境**を築き上げていきたいと思ひます。



Growth

#### 担当教員からのコメント

本授業は、こどもスポーツ教育学科の教員養成のポリシーである「**体育・スポーツの得意な小学校の先生**」を目指すことに繋がる授業になります。この授業で学んだことをきっかけに、教材研究を重ねつつ、実践的指導力をさらに磨き上げ、**体育をしっかりと指導**できる

小学校教員になってほしいと感じています。また、「**体育は好きな教科**」「**運動することが好き**」と捉えている児童は、**年々増加傾向**にあるので、そのニーズに応えられる**体育授業を実践**できる教員を目指してほしいと思っています。

# アルゴリズムとデータ構造

理工学部 理工学科 教授 中村 嘉志 先生

## 授業内容

情報工学を学ぶうえで欠かすことのできない「アルゴリズム」と「データ構造」の考え方を学びます。アルゴリズムとは一般に計算手順を意味します。このアルゴリズムに最適なデータ構造を組み合わせることでプログラムの処理性能が飛躍的に向上します。これらのことを系統的に学びます。

## 先生に聞く授業ポイント

### 普遍的で有益な知識と考え方を身につける！

この授業では、プログラム開発の方法論(メソッド)を学ぶのではなく、その背景にある考え方や基本原則などの理論(セオリー)を学びます。この科目内容を修得することによって、情報工学において今後の発展と飛躍に欠かすことのできない普遍的で有益な知識と考え方を身に付けることができます。



#### Point 1

#### 入門だからこそしっかりと丁寧に！

アルゴリズムとデータ構造は、**情報工学を本格的に学ぶうえでの入門**と言っても過言ではないでしょう。入門、それは基礎であり基本です。だからこそ、理工系で大切な「ものづくり」の道があらぬ方向へと続かないように、授業では**しっかりと丁寧な解説を心がけています**。一方で、残念ながら入門はつまらなく感じてしまうことも事実です。そのため、実践的なトピックも織り交ぜつつ、ここで**学ぶべき理論をなるべく現実に寄り添わせて授業を進めています**。

#### Point 2

#### 素朴なことを不思議に思う心！

ソート(並べ替え)は、**アルゴリズムを学ぶうえでの花形の一つ**です。しかしこのソートには、両手では数え切れないほどの方式が存在します。並べ替えなんて1種類で足りそうなものですが、なぜ多くがあるのだろう。このような素朴な疑問から出発して、そのことを**不思議に思う心、それこそが人を成長させて強くする原動力**です。たくさん存在するのには何かしらの理由があります。**その視座から見えてくる本質**を授業の中で見いだしてみよう。

#### Point 3

#### 意外と身近な存在！

アルゴリズムと聞くと取っ付きにくい印象を抱くこともあるでしょう。しかし**意外と身近な存在**です。例えば、私たちが暮らしの中で何処かに出かけるとき、乗換案内や道案内をしてくれる**応用プログラム(俗に云うアプリ)**に頼ることがしばしばあります。その裏では、とある有名なアルゴリズムとデータ構造がそれぞれ隠れて仕事をしてくれています。**私たちが裏で支えている、このような親近感を持ってもらえるよう工夫しながら授業を進めています**。

## 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 理工学部 Bさん)

### 現実世界に直結した情報工学の奥深さを学ぶ授業！

この授業では、「アルゴリズムとデータ構造」を基礎から深く学べるだけでなく、**現実世界での活用例や他の情報工学との関連性**も詳しく説明してくれます。中村教授独自の視点で誤りや改善点を指摘し、効率的な学習方法についても示唆を得られるため、**情報工学を本格的に学びたい学生に最適な授業**です。


*Solution*

### 論理的な構成で理解力を最大化する授業！

授業の構成は、どのトピックも順序立てており、**段階的に理解を深められる内容**になっています。難しい部分はわかりやすく強調し、**前後の授業内容や他の関連分野との繋がり**も教えてくれるため、視野が広がるとともに、**効率的な学びが可能**です。**情報工学の全体像を捉えながら学べる点**が魅力です。


*Stimulation*

### 「効率的な学び」と「実践的なスキル」が手に入る授業！

この授業を通じて得た知識や考え方は、**他の情報工学の学びや資格取得**、さらには実際にコードを書く際にも役立っています。**「優れたアルゴリズム」の本質**を学べたことで、プログラムの効率化や使いやすさを意識しながら書くスキルを磨きました。将来も活用できる**実践的な視点**が身に付く授業です。


*Growth*

### 担当教員からのコメント

現代を生きる私たちは製品に囲まれて暮らしています。学生の皆さんには、それら製品が私たちに与えてくれる機能がどのようにして実現されているのか不思議に思う心を持ち、そのことを大切にしたいと願っています。この科目ではアルゴリズムが織りなす機能

の一側面しか扱うことができませんが、これがきっかけとなって多くの不思議と出会い、その裏側に潜む仕組みに目を向けてもらいたいと思います。それが理工系科目の醍醐味のひとつです。それぞれの「見る目」が養われんことを期待します。

# 模裁・法討A・B

法学部 法律学科 准教授 櫻井 博子 先生



## 授業内容

裁判の流れや法律上の争点に関する議論を理解するために、法学部1年生が視聴する動画を作成します。学部で「受け手」として学んだ制度や判例の知識を、脚本・演者・資料作成・録画・編集などの役割に分かれ、「作り手」として動画作成のために活用することで、多面的な実践力を養います。

## 先生に聞く授業ポイント

### 法的知識を用いて動画作成プロジェクトを達成！

前半は、全員でモデル事例の争点と裁判所の判断内容を理解し、動画の結論を議論して決定します。後半は、その議論をもとに動画を作成します。この一連の流れを通じて、法律を「使って考える力」(リーガルマインド)に加え、チームワーク力やプロジェクト遂行力も身につけることができる授業です。

#### Point 1

#### 裁判資料で学ぶ法的思考・論理力！

学部の授業では、争点に対する判決の要点のみを学びますが、実際の裁判では、**複数の主張とそれに対する反論がなされ、それぞれについて裁判所が見解を述べています**。「裁判の流れ」を説明するためには、まず「作り手」が、この**事案と複数の争点、判決の内容を理解**しておく必要があります。この授業でも、実際の判決文の資料を読み解き、何が書かれていたのかを要約して報告します。こうした作業は、**自身の論理力や文章構成力を磨くこと**にもつながります。

#### Point 2

#### 議論で深める多角的視点と表現力！

法律問題では、**正解は1つとは限らず、価値観や視点の違いから複数の解釈や判断が存在し得るため、異なる結論が導かれる可能性があります**。この点を1年生が理解できるように、①この動画の結論、②他の結論の可能性の両方を示し、①②の内容と、動画内やパンフレットでの説明や順番について、議論を重ねました。こうした議論の経験は、**多様な価値観への理解を深めるだけでなく、他者に理解してもらえるプレゼンテーション能力**を身につけられます。

#### Point 3

#### 協働で磨く社会的ソフトスキル！

この授業は、「**Project-Based Learning (プロジェクト型学習)**」です。グループで判例に関する資料作成や報告を行うことに加え、演者・脚本・資料作成・撮影などの役割を分担して作業を進めることは、動画作成という「プロジェクト」の遂行を目的としています。このプロジェクトを成し遂げるためには、**自身の役割を責任をもって果たすことや、他者と協働しながら取り組むといった「社会的ソフトスキル」が不可欠**です。この授業は、そうしたスキルを高める機会のひとつでもあります。

## 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 法学部 Oさん)

### 学年の垣根を超えた議論で広がる視野と確かな実践力！

学年を越えた活発な議論を通じて、**多角的な視点に触れ、視野を大きく広げることができました**。模擬裁判の事前学習として取り組んだ判例研究では、先生や先輩の指導のもと、**事実整理・争点抽出、意見構築といった実践的な力を養成**しました。この判例への深い理解こそが、**その後の活動の基盤**となりました。


*Solution*

### 活発な議論と丁寧なサポートで法律の奥深さを実感！

**学生主体の活発な議論と先生の丁寧なサポート**で、安心して学ぶことができました。「過失相殺」に代表される**法解釈の奥深さに触れ**、時には意見を戦わせながらも、1年生向けの教材として**最善の模擬裁判を目指し仲間と協働**しました。努力が評価される環境で、**主体的に課題解決に取り組む楽しさ**を実感しました。


*Stimulation*

### 模擬裁判が育んだ失敗を恐れぬ挑戦心！

以前は失敗を恐れ、積極的な行動をためらうことがありました。しかし、模擬裁判で演者として成功を体験したことで、「**行動なくして何も始まらない**」と実感しました。この気づき以来、**失敗を恐れることなく、様々なことに積極的に挑戦**しています。この「挑戦する精神」こそが、**模擬裁判を通じて培った私の揺るぎない強み**です。


*Growth*

### 担当教員からのコメント

1年生が視聴する動画の作成を行うこの授業は、これまでに教科書や講義で学んだ法律知識が、実際の事例ではどのように適用され、問題解決に役立つのかを理解し、複数の解決策の可能性を検討する、まさに「リーガルマインド」を修得できる機会です。また、学年や

学科の異なる学生が混ざったなかで、役割分担して作業を行うため、自身の役割を果たすことと、他者と協働することといった「社会的ソフトスキル」が求められる場面も経験できます。この授業で学んだことを活かし、将来活躍していただきたいと思います。

# 日本思想を読む

文学部 文学科 准教授 吉原 裕一 先生

## 授業内容

日本のいろいろな思想を、実際にテキストを読みながら「こういう感じなんだ」と理解してもらうことをめざしています。他人の解説で知るのではなく、自分で本文を読んで分かることの楽しさと、「この作品はどうやって読むのか」という適切な読み方を身につけることの、両方を学びます。

## 先生に聞く授業ポイント

### 「読解力」と「思考力」を徹底的にきたえます！

卒業論文を執筆するためには、テキストを自分で読みこなす力と、その内容について論理的考察を深める力、そして文章表現力が不可欠です。この授業では、それらに加えて「思想って何だろう？」という視点から、著者が思い描いている世界観をつかみとる確かな洞察力を養ってゆきます。



### Point 1

#### 日本文化のすべてがテーマ！

有名な古典作品はもちろん、茶道や歌道などの文化、仏教や神話などの宗教、お化けやモノケが出てくる怪談話、地獄・極楽の不思議な話、現代小説やアニメなど、**授業で扱う材料はさまざま**。誰かに何かを伝えようとする作品には必ず「思想」が込められています。それを取り出すには「ウデ」が必要です。**自分の力で作品を読み解き**、悩みながら考え、著者が一番伝えたいメッセージを探り当て、「これだ！」と言葉で表現できたときの嬉しさは格別です。

### Point 2

#### 自分を成長させる修行の場です！

作品を理解する方法についてレクチャーはしますが、みなさんが実際に**「自分でテキストを読んで考える」というアクティブラーニング**を大事にする授業です。(水泳の講義を聴いただけで泳げるようにはなりませんよね？それと同じです。)理解の切り口や、考察の進め方など、詰まったら遠慮なく質問してください。分かりやすくアドバイスはしますが、**その壁を自力で乗り越えてゆくのは、みなさん自身**です。教員はそれを全力で応援するだけです。

### Point 3

#### 「伝える」ために何が必要か？

自分の中で「わかった！」と実感したことを、他者に伝えるためにはそれを言葉にしなければなりません。しかし、それが難しいのです。**「自分の考えを言葉にする」**ための練習を通じて、「**どのように表現すれば他者に伝わるのか**」を自らつかみ取る。そのように苦労して編み出した言葉が他者に伝わったとき、それこそが**本当の意味で「わかった！」**ことになるのです。レポートでは、みなさんが工夫した成果を存分に発揮してもらいます。

## 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 文学部 Oさん)

### 特色のある授業で、毎回新鮮な気づきが得られた！

日本最古の歴史書である古事記から近代哲学、漫画、アニメまで**多様な事例を扱い、毎回異なる視点で考察する独自性**がありました。他の授業とは異なる学び方のため、**毎週新鮮な気づき**があり、授業が**とても楽しみ**でした。また期末レポートで15分間の授業の学びを自覚的に総括でき、**大きなやりがい**を感じました。



Solution

### 環境に左右されることなく、のびのびと勉学に励める環境！

先生の話をよく聞いた上で、自ら考えることを重視する授業だったため、あまり**環境に左右されず授業を受ける**ことができました。また興味深いトピックも多く、授業中に疑問に思ったことは**気軽に質問**ができて、必要に応じてさらに深い学びを提供してもらえる環境は、**とても魅力的**だと感じました。



Stimulation

### 授業で培った読解力と文章力が実践の場で役に立った！

**読解力・文章力が向上**しただけではなく、問題解決のための**論理的思考法**や相手に伝わりやすい形で**自分の意見を言語化する方法**も学ぶことができました。記事の紹介文などを作成する際に、これらの力を発揮できました。また、学習指導案や小論文といった**教育実践の場面**においても、**とても役に立っています**。



Growth

## 担当教員からのコメント

「テキストを読んで考える」方法に、唯一の正解というものはありません。例えば、「この世で一番おいしい食べ物って何ですか」という問いに対して、みなさんの答えが一致することなんてありませんよね。それと同じです。しかし、ほとんどの人が「これはおし

い」と感じるレベルというものは存在します。この授業では、みなさんの読解力・思考力・表現力を、いわばそのレベルまで引き上げてもらうことを目標として、「この作品には、どのように切り込めばいいか？」を問い続けてゆきます。

# 21世紀アジア学演習1・2・3・4 / 卒業研究1・2

21世紀アジア学部 21世紀アジア学科 教授 桑田 てるみ 先生

## 授業内容

教職課程を履修する学生が、教職教養を身につけたり教職に関する経験を積んだりする授業です。現在の教育に求められることだけではなく、今後の教育に求められることなども議論しながら、主体的に取り組みます。3年生から4年生へと学びを深め、教員としての資質能力を高めることも目的としています。

## 先生に聞く授業ポイント

### 議論と経験を重ねて教育課題を探究する！

教育用語について調べ、調べたことを発表し議論して、教育課題への考察を深めます。同時に、実際の学校現場を訪問することによって、現在の教育課題を肌で感じます。さらに、調べたこと、聞いたこと、話したこと、見たこと、経験しことをもとに、自分なりの教育課題を見つけて、卒論に取り組みます。



### Point 1

#### 基本的な教育用語を深堀する！

教育の世界には、独特の用語があります。「資質・能力の三本柱」「カリキュラムマネジメント」「キーコンピテンシー」「ルーブリック」「国際バカロレア」「生徒エージェンシー」など普段の生活では使わない用語があります。また、海外の最新の教育状況を表す用語も次々に出てきます。国内外の教育関連用語について、自ら調べ発表することはもとより、他者の発表に対してコメントや質問し議論することで、より深い学びに導きます。

### Point 2

#### 教室外に飛び出し現場を体験する！

「百聞は一見に如かず」。教員となることを目指す学生にとって、学校教育の世界を自分の目で見ることは何よりも学びになります。毎年、事前の十分な調査を行ったうえで、最新の教育を行っている学校を訪問し、先生方のお話を聞き、生徒の様子を観察したり交流したりしながら学びます。また、海外の学校(今年度は台北日本人学校)にも訪問して、時にはボランティア活動を行い、より広い世界的な視野を持つことを目指します。

### Point 3

#### 自らの課題を深める喜びの体験！

教育課題の調査発表、日本や海外の学校訪問や教育ボランティアを通して、自分なりの教育課題が見えてきます。自分なりの教育に関するテーマと問いを設定して考察を行い、卒論を執筆します。考察を深めるために、文献調査やアンケート・インタビューを行ったり、時にはフィールドワークを行ったりしながら、自分の問いへの回答を求めていきます。自らが探究する喜びを感じ、学ぶことの楽しさを教えられる教員になることも目指します。

## 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 21世紀アジア学部 Fさん \*21世紀アジア学演習1・2を履修)

### アクティブ・ラーニングを通じて、知識の確実な定着を図る！

アクティブ・ラーニング型の授業を通じて、主体的な学習姿勢が培われ、学んだ知識は確実に定着しました。また疑問点に対しては、丁寧なご指導をいただけたおかげで、深い理解を得ることができました。プレゼンテーションの機会も多く設けられていたため、学生同士で活発な意見交換ができ、とてもやりがいがありました。



Solution

### 学校教育の明確な目的を本質的に理解できた！

この授業を受けるまでは、学校教育に対する理解が漠然としていました。しかし、授業で教育に関する様々なキーワードを深く掘り下げの中で、教育が社会状況や教育現場の実態と密接に関わり、明確な目的を持って実践されていることを深く理解できました。教育業界を目指す学生には、ぜひ受講をお勧めしたいです。



Stimulation

### 学びを深めるカギは情報収集力にあり！

この授業で教育の目的を深く理解したことで、社会状況への関心が深まり、ニュース等を通じた情報収集が日常的な習慣となりました。この視点を持って他の授業にも臨むことで、教育の目的と社会状況との関連性を常に意識できるようになり、以前にも増して、多角的な視点で深い学びを得ることができています。



Growth

### 担当教員からのコメント

21世紀アジア学部の中の教職課程のゼミのため、特殊なゼミ内容になっています。毎年のゼミ研修は、上海、香港、タイ、マレーシア、台湾などのアジアの国々での、学生が企画する教育ボランティアを行ってきました。単に教職を学ぶのではなく、単にアジアを学ぶの

でもなく、自主的、かつ複合的な深い学びになるように授業設計をしています。主体的に活動することが多く、考えることも多いゼミです。それは今後の教員人生に必ず役に立つと考えます。たくさんの体験をして学びを深めてください。

# 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

経営学部 経営学科 教授 池元 有一 先生

## 授業内容

ゼミ活動を通じてビジネスをする上での「考える力」(課題発見・解決能力)を養います。そのために、経営史学が蓄積した企業(家)や産業の歴史的な事例を分析します。同時に、その分析ツールとして、経営学の広く浅い「知識」を取得します。また、多彩な行事や就職活動で大学生生活を充実させます。



## 先生に聞く授業ポイント

### ゼミでしかできない学び・体験・就活!

大学生生活の目的は「たくさん学んで、たくさん体験して、良い会社に就職する」ことです。そこで、本ゼミでは、ゼミ活動でしかできないグループでの学び・体験・就活の場を提供します。それを通じて、異なる意見を理解しそれを調整し豊かな人間関係を築き学生生活を充実させることを目標としています。

#### Point 1

#### ゼミでしかできない「学び」!

ゼミでしかできない学びを提供します。3年生は**報告者が教科書のポイントと議論すべき論点を提示し、ゼミ生全員で質疑**します。質問など必ず発言することで出席となります。教科書では、松下幸之助や稲盛和夫など取り上げています。このような**議論により多様な考えがあることを理解**し、また、企業家の生きる姿勢も学びます。4年生は卒業論文の執筆と報告を通して、**ある問題に対して仮説を立て調査・分析し発表する社会人として必要な能力を養**います。

#### Point 2

#### ゼミでしかできない「体験」!

ゼミでしかできない大学生らしい体験を提供します。例えば、新ゼミ生歓迎会、無人島BBQ、ビアガーデン、東京湾納涼船クルージング、沖縄ゼミ合宿、球技祭、楓門祭出店、新ゼミ生の選考面接、忘年会などです。**どのイベントもゼミ生同士での強い協力が必要です**。参加は個人の自由ですが、充実した大学生活を送るため積極的な参加を勧めています。**このような体験を通じてお互いに異なる立場を尊重しながら計画を進める能力を磨**きます。

#### Point 3

#### ゼミでしかできない「就職活動」!

ゼミでしかできない就職活動をします。まず、4月にグループワークでSPIに挑戦します。その後、6月には、就活を終えた4年生が3年生に就活指導をします。それは4年生にとっても就活の振り返りになる大切な活動です。また、**卒業生も就活指導にゼミを訪れます**。12月には、3年生が新ゼミ生を選考する面接を行い、本格的な就活の前に選考する立場を経験します。以上のように、**ゼミの力を最大限に発揮し団体戦として就職活動**をします。

## 学生に聞く推薦ポイント

(2023年度入学 経営学部 Mさん)

### 学生のニーズに寄り添った、フレキシブルな学びが出来る授業!

学生のニーズを汲み取ってくれた授業をしてくれました。例えば、様々な有名企業のバックグラウンドを調べ**発表する日**があったり、**就職活動**をベースにした授業があったりと、他の授業にはない学生のニーズに寄り添った**フレキシブルな授業**をしてくれました。


*Solution*

### 池元ゼミ特有のゼミ仲間と一致団結する力!

ゼミの雰囲気は、**とてもアットホームで、仲間と一致団結**して、様々なイベントに挑戦しています。ゼミ生同士は仲が良く、**授業中も意見が言いやすい**です。また就職活動においては、ゼミ生同士で各業界の情報を共有しているため、ゼミ全体で就職活動意欲が高まってきており、**皆で乗り越えることが出来**そうです。


*Stimulation*

### ゼミで鍛えられた能力が就職活動に役立つ!

授業では、自己研究の発表や他の発表者に対する質問を必須としているため、**人前で発表する力、質問する力、傾聴する力、課題を発見する力**がとても成長したと思います。またゼミを通じて、様々な業界研究や経営者の特徴を調べることができるため、**就職活動の企業選び**に非常に役立っています。


*Growth*

### 担当教員からのコメント

ゼミ活動では、多様な意見や価値観に遭遇します。その際に、自分と異なる意見を理解する努力を放棄しないで、積極的に異なる意見を求め、それを正しく理解し、自分の意見を修正することを学んでほしいと思います。それが、昨今の「分断」や「格差」を解決できる方法の

一つとなるからです。また、卒業後もゼミに来て後輩を指導する先輩もいます。その先輩にとって、その指導は自分を見つめ直す良い機会となっているのだと思います。卒業後も「居場所と出番」を提供したいと思っています。

# 創立者 柴田徳次郎の

## 言葉から学ぶ

### 【大志】

「人間は何時何処へほうり出されても、一人だち出来る人間にならねばならない」

(『柴田徳次郎伝』 305頁)





国士舘大学 学長室FD・IR推進課

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

TEL : 03-5481-5386

発行日 : 2026年3月